

修了生の協力による外国人学生募集

—国際大学（IUJ）の取り組み—

Recruitment for International Students

Supported by Alumni:

Challenges by International University of Japan (IUJ)

国際大学学生募集事務室室長代理 平澤 文子

HIRASAWA Fumiko

(Deputy Manager, Office of Student Recruitment, International University of Japan)

キーワード： 外国人学生、国際大学（IUJ）、International、外国人留学生獲得戦略

1. 国際大学（IUJ）の成り立ち

まず初めに国際大学（IUJ）について簡単にご説明させていただきます。国際大学は単純に英訳すると International University となりますが、正式名称は International University of Japan で、“of Japan” が含まれているところに、設立者の熱い想い、志や希望が託されていると思われます。（学生、教職員、修了生からは略称の“IUJ”で親しまれていますので、以降、“国際大学”を“IUJ”と記します。）

IUJ は、1976 年日本興業銀行相談役であった中山素平が、佐々木直（経済同友会代表幹事）、土光敏夫（日本経済団体連合会会長）、永野重雄（日本商工会議所会頭）、水上達三（日本貿易会会長）と共に設立発起人代表として設立準備財団を立ち上げ、1982年に新潟県南魚沼市（当時南魚沼郡大和町）に開設、1983年から学生の受け入れを開始しました。設立後まもなく入学時期が4月と9月の二期となり、その後早い段階で原則9月入学となりました。秋、冬、春の三学期制度を取っており、毎学期中間試験と期末試験期間を含む10週間となっています。

設立の趣旨は以下の2つからなり、IUJはいろいろな意味でユニークかつ先進的な特徴を持っています。

設立の趣旨（原文）：

- ・ 国際大学はわが国の経済界、教育界並びに地域社会の強い支援を背景に誕生した私学であることを鑑み、国際的進取の精神のもとに自主独立と、自由闊達な運営を基本姿勢とする。

- ・ 国際大学大学院は高度に専門的且つ学際的学識を具備し、それを国際場裡で実践活用し得る人材を育成することを主目的とする、新しいプロフェッショナル・スクールである。

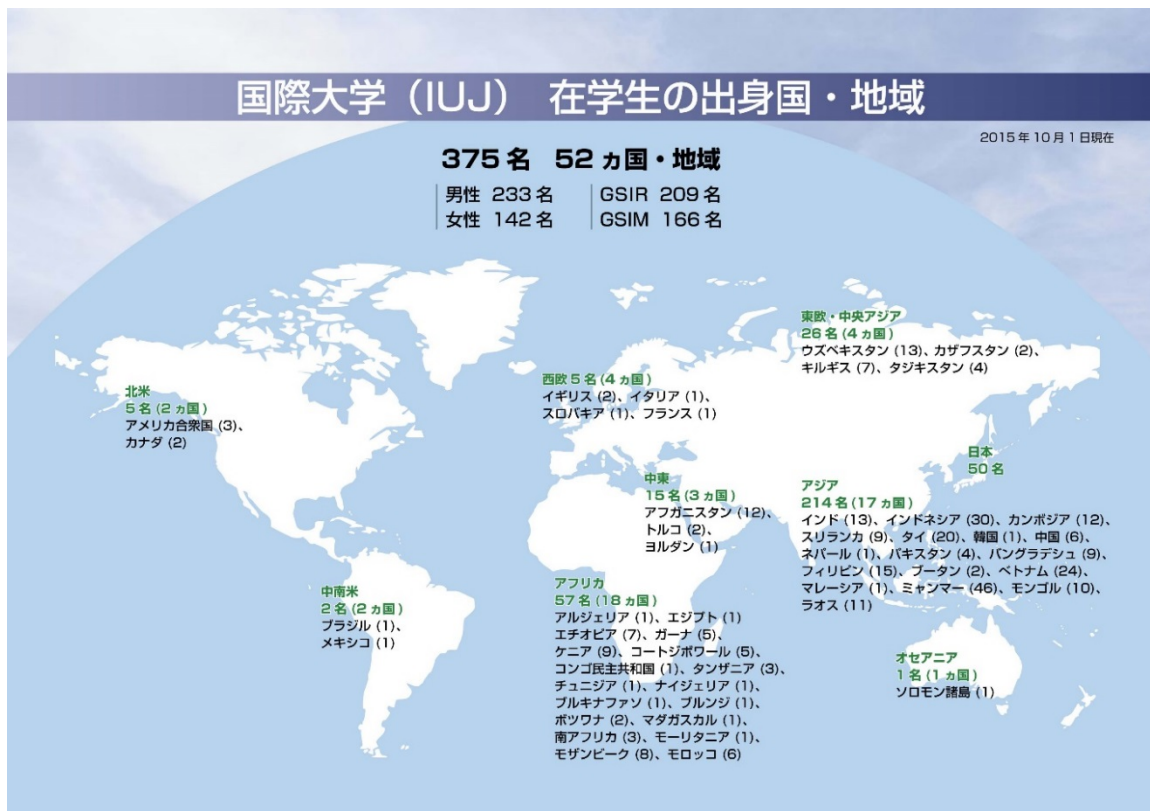
2. IUJ が提供するプログラムと学生の出身国・バックグラウンド

設立当初は国際関係学研究科のみで、その中で経営学や経済学を学んでいる学生もおりましたが、1988年に国際経営学研究科 MBA プログラム(2年制)が米国ダートマス大学エーモス・タックスクールのサポートのもと開設され、現在は、2つの研究科で以下のプログラムを擁しています。

(2年制修士課程は6月修了、1年制修士課程は8月修了で、授業終了後修士論文提出となります。1年制MBAのみ6月下旬から8月上旬まで授業が開講されます。)

- 1) 国際関係学研究科 (Graduate School of International Relations: GSIR)
 - 2年制修士課程： 国際関係学/国際開発学/公共経営・政策分析 プログラム
 - 1年制修士課程： 公共政策プログラム (要 原則2年以上の実務経験)
 - 博士後期課程： 経済学、公共経営学、国際関係学 クラスター
- 2) 国際経営学研究科 (Graduate School of International Management: GSIM)
 - 2年制修士課程： MBA プログラム
 - 1年制修士課程： MBA 1年制プログラム (要 原則5年以上実務経験)
 - E ビジネス経営学プログラム

2015年10月時の在学生の出身国・地域の分布図は以下のとおりで、外国人学生の割合は87%と高い比率となっています。また、学生募集において年齢の上限はなく、平均年齢は29歳です。



学生のバックグラウンドは、私費学生、企業・自治体からの派遣生、JICA や IMF (国際通貨基金) パートナーシッププログラムによるアジアからの派遣生、政府派遣生、ABE Initiative によるアフリカからの派遣生など多様です。

外国人学生内で私費学生が占める割合は、2015年11月現在で国際関係学研究所(GSIR)は194名中42名(約22%)、国際経営学研究所(GSIM)は130名中49名(約38%)です。

プログラムの性格上、国際関係学研究所(GSIR)の国際開発学プログラム(IDP)及び公共経営政策プログラム(PMPP)はIMFパートナーシッププログラムやJICAによる各種支援プログラムの学生を多く受け入れています。

3. IUJ 修了生の協力体制

2015年10月現在のIUJ修了生は115カ国3,809名で、出身国・地域の内訳は以下の分布図の通りです。修了生サービス、データベース管理は学生センター事務室が行っており、修了生、在学生・教職員はホームページから各国にいる修了生を検索することができます。

IUJの学生は修了前に連絡先住所等を登録、希望者に以下のボランティアに申請してもらいますが、修了後も更新可能です。

- ・ Alumni Ambassador (学生募集活動に協力)
- ・ A-Can (在学生の就職活動に協力)、他

2016年5月現在、Alumni Ambassadorsに登録している修了生(国籍問わず)は、海外居住者が約710名、国内居住者は約260名となっています。

海外のAlumni Ambassadorには居住国でのIUJ説明会の日時設定・運営、海外留学フェアにおけるIUJブース参加の協力をお願いしています。国内居住者の場合、東京や大阪で開催しているIUJ説明会に参加を依頼、体験談をお話していただいています。

また、志願者より母国や母国出身の修了生とEメール等でコンタクトを希望する場合、彼らに確認して紹介しています。

この他、各国・地域ごとに同窓会支部が設けられ、現在約40カ国53都市に広がっています。毎年9月初旬の金曜日を”IUJ Friday“として各国同窓会に呼びかけ、世界中でIUJ修了生が集まるイベントとして定着しています。2015年9月11日は30都市以上で修了生が集まりました。

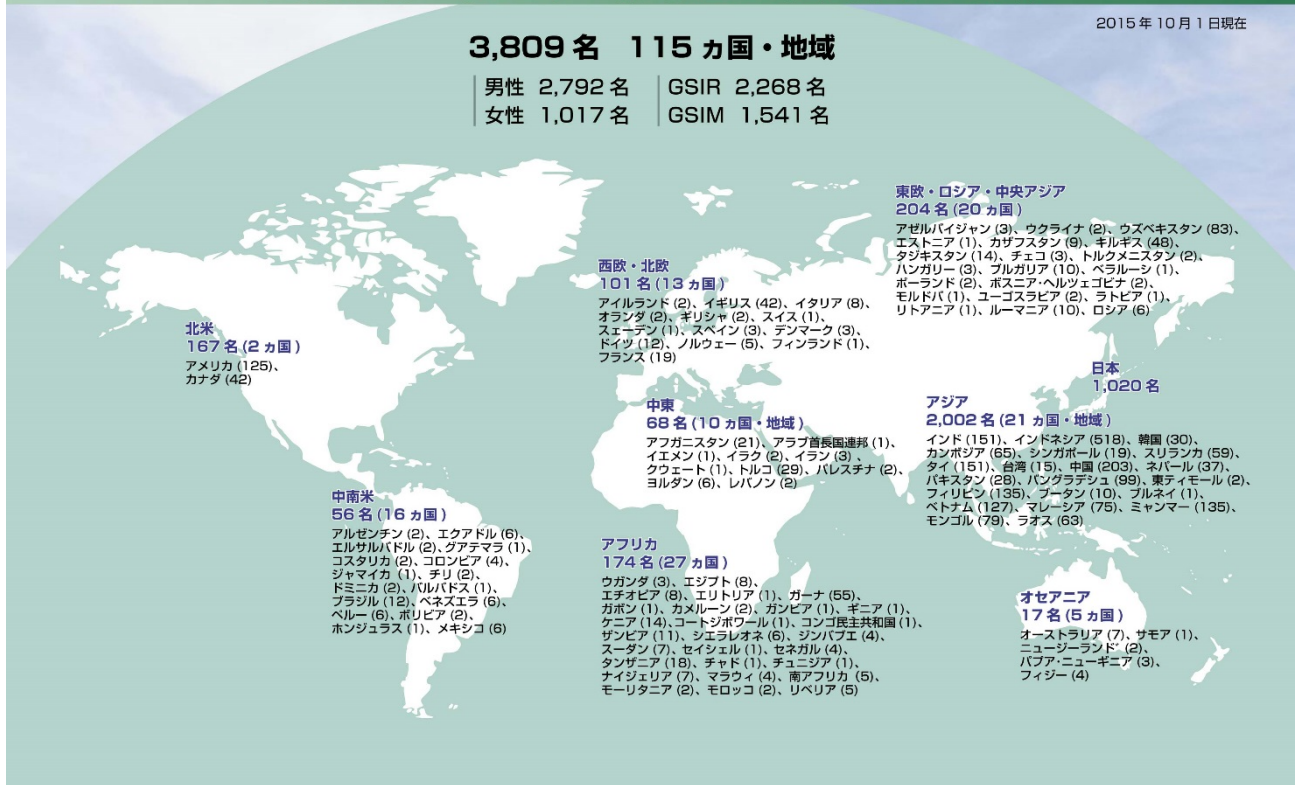
また、最近では、Facebookにより、IUJの写真やニュースを修了生がいち早くチェックできるようになりました。こういった同窓会やFacebookも、IUJ修了生のネットワーク強化につながっています。

国際大学 (IUJ) 修了生の出身国・地域

2015年10月1日現在

3,809名 115カ国・地域

男性 2,792名	GSIR 2,268名
女性 1,017名	GSIM 1,541名



4. IUJ 修了生による説明会概況

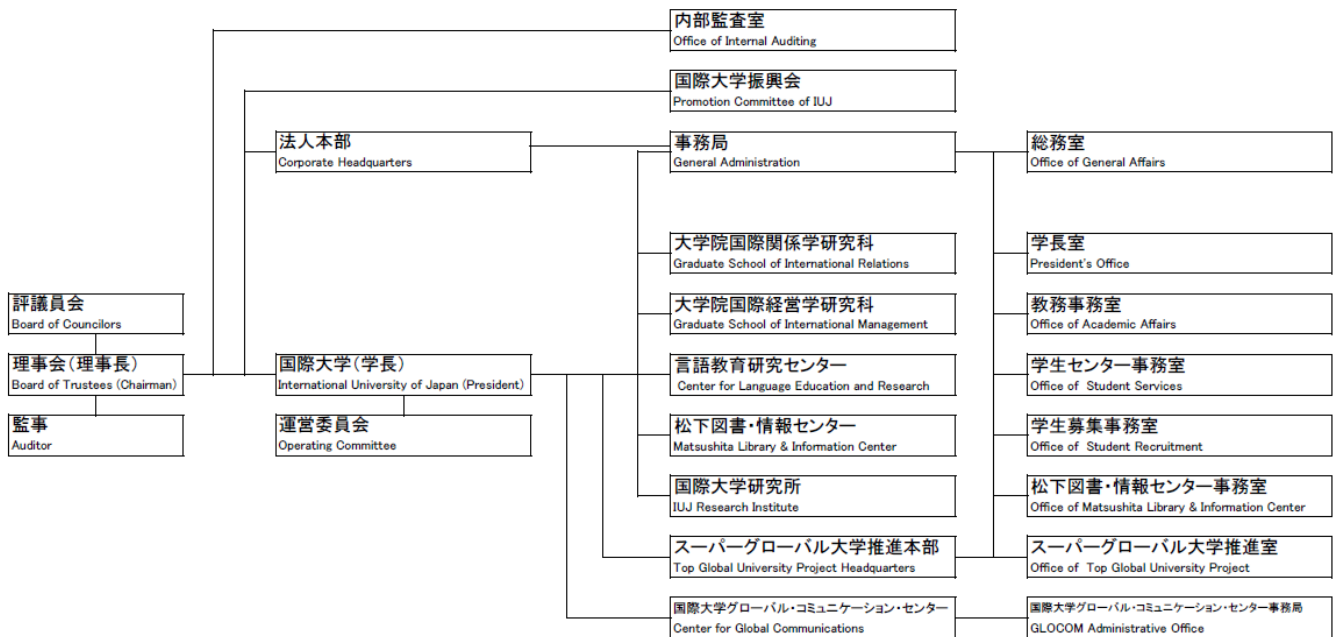
IUJ 修了生による説明会は 2006 年頃から開始し、アジア地域を中心に、夏あるいは秋に開催してきました。近年は海外留学フェアと合わせて、修了生に協力を依頼しています。

修了生による説明会実施の流れは以下の通りです。

- 1) 開催予定国の Alumni Ambassador あるいはその国のリーダーに依頼 (学生センター事務室)
- 2) 日時決定後、ホームページ“説明会・オープンキャンパス”サイトに掲載 (学生募集事務室)
- 3) 資料を修了生に郵送、プレゼンテーション資料は HP よりダウンロードしてもらう
- 4) 参加予定者リストを修了生に送信 (学生募集事務室)
- 5) 修了生より参加予定者にリマインドメール送信 (会場等、詳細連絡)
- 6) 開催後、修了生より学生募集事務室に報告
- 7) 学生募集事務室より参加者へお礼メール送信、フォロー
- 8) 学生募集事務室より修了生にお礼 (IUJ グッズなどを郵送)

学校法人国際大学組織図：

2015年4月1日



2011年以降の修了生による説明会開催国：

開催年	開催国
2011年8月、9月開催(20カ国)	ウズベキスタン、エジプト、キルギス、ケニア、コスタリカ、シンガポール、スリランカ、タイ、中国、トルコ、日本、ネパール、パキスタン、バングラディシュ、フィリピン、ベトナム、ベルギー、北米、マレーシア、ミャンマー
2012年9月開催(11カ国)他、海外留学フェア協力(6カ国)	インド、シンガポール、タイ、トルコ、ネパール、バングラディシュ、フィリピン、ベトナム、香港、マレーシア、ミャンマー、(他海外フェア会場に参加：ウズベキスタン、カンボジア、キルギス、中国、モンゴル、ラオス)
2013年9月開催(4カ国)他、海外留学フェア協力(9カ国)	インド、バングラディシュ、フィリピン、ネパール (他海外フェア会場に参加：カザフスタン、カンボジア、キルギス、スリランカ、タイ、フランス、ミャンマー、モンゴル、ラオス)
2014年10月開催(5カ国)他、海外留学フェア協力(9カ国)	インド、インドネシア、バングラディシュ、フィリピン、ネパール (他海外フェア会場に参加：ウズベキスタン、カザフスタン、カンボジア、キルギス、スリランカ、タイ、フランス、モンゴル、ラオス)
2015年複数回開催(1カ国)他、海外留学フェア協力(10カ国)	インドのみ(他海外フェア会場に参加：ウズベキスタン、オーストラリア、カザフスタン、カンボジア、キルギス、スリランカ、タイ、ベトナム、モンゴル、ラオス)

2013年9月フィリピンでの修了生による説明会の様子：



2014年10月インドでの修了生による説明会の様子：



5. なぜ修了生が母校のために一生懸命サポートしてくれるのか

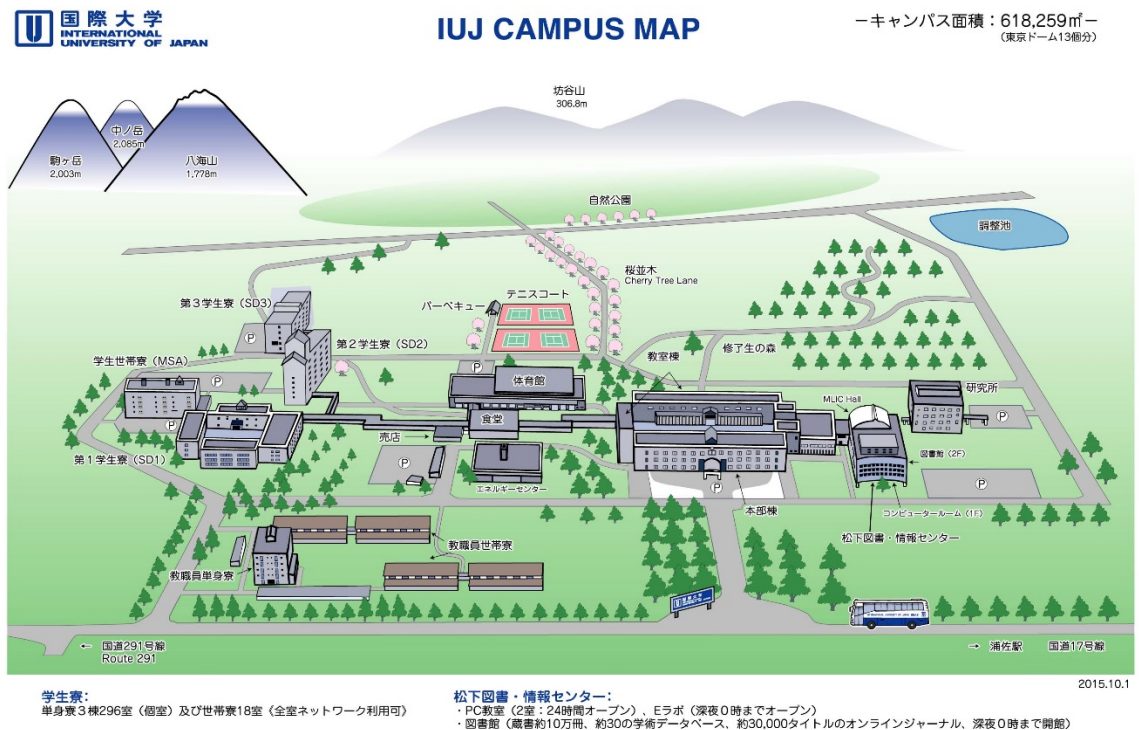
なぜIUJの修了生はこれほどまでに協力してくれるのでしょうか。それは、IUJの学生規模、学生の多様さ、教育環境・自然環境などが大きく影響しています。IUJのユニークな特徴を以下お伝えします。

- 1) 苦楽を共にすることで、学生同士の結びつきが強くなる。
 - ・ IUJでは祝日もほとんど関係なく、各科目のシラバスに沿って授業が行われ、課題も多く出されます。1人でテキストを読んだり、グループで話し合ったりとさまざまですが、ほとんどの学生は睡眠時間を削って勉強します。
 - ・ コンピュータールームや自習室は24時間使用可能、図書館は夜中の12時まで開館してい

ます。多くの学生がキャンパス内の学生寮に住んでいるため、夜中までディスカッションすることが可能です。また平日は8時から20時まで約1時間に1本、IUJと浦佐駅や学外アパートを結ぶ送迎バスを運行していますが、学期中（平日）は22時と24時15分にも運行されます。（週末は別スケジュール）

- ・ 学生自治会 (GS0-EC) 主催のさまざまなイベント（インターナショナル・フェスティバル、IUJ オリンピック、スキーデー等）が企画され、友人と協力し、楽しめる時間もたくさんあります。

クラブ活動（同好会）も盛んで、朝7時から夜12時まで開いている体育館で気軽にバレーボール、サッカー、バスケットボール等のクラブに参加でき、夜10時までテニスコートも使用可能です。（家族や教職員も参加可能）



2) IUJ 内は一つのファミリー

- ・ 全学生 380 名以下のため、入学後数カ月もすればほとんどのクラスメイトの顔がわかるような環境です。（名前を全て覚えるのは至難の業ですが）
- ・ IUJ では、「留学生」という言葉はほとんど使用しません。日本人も含め同じ「学生」です。国籍に関係なく、優秀かつ謙虚な学生、リーダーシップ能力のある学生、いつも笑顔で周囲のことを思いやれる学生等が、万国共通で人気者になる傾向があります。
- ・ 教員のオフィスを訪ねて気軽に質問ができる環境で、2年生の Teaching Assistant から授業の補講も実施、ある科目に得意な学生が不得意な学生をフォローする体制が整っています。

3) 互いの違いを知り、理解し、認め合うこと

- ・ 50カ国以上の学生が集まるということは、互いの文化や習慣の違い、食文化、宗教を知ることになります。約束の時間に集合すること一つにしても、考え方や習慣が違い、ぶつかることも多く、必ずしも良いことばかりではありません。日常の中で、学生同士学習し合い、修了する頃には価値観が広がり、他人の意見や行動に対する許容範囲が広がったという感想をよく聴きます。
- ・ 結果として単なる知り合いではなく、信頼できる親友が世界中にできることになります。

4) 広大なキャンパス、四季折々の自然

IUJ キャンパスの敷地は東京ドーム 13 個分の広さがあり、八海山がすぐ近くに見え、付近の山々や桜並木、広い草地在勉強で疲れた眼を癒してくれます。また、冬は2メートル以上の雪が降り、春夏秋冬の移り変わりを肌で感じることができます。美しいキャンパスで学生生活を送ることは、修了生にとって忘れられない記憶になっているようです。

5) 地元の人々との交流

日本語（語学）の会話の授業では、地元の方々や日本人学生のご家族がボランティアで参加しています。また、地元の裸押合祭りや雪祭りに参加したり、国際交流ボランティア団体や小学校等との交流により、日本の文化や地方の生活に触れる機会も多く、外国人学生にとって貴重な経験になっています。

IUJ では修了生がよくひょっこり遊びに来てくださいます。海外居住者は日本に来たときに、国内に住んでいる日本人もたまにご家族と一緒に遊びに来られます。これは、IUJ の以上のような特徴、環境があるからで、スタッフの1人として、本当にありがたいと感じています。

6. 今後の課題

上記のように修了生が協力的な IUJ ではありますが、今後の課題として以下があげられます。

・ 修了生による説明会に関する課題

いくら修了生が積極的でも、その国の参加者が集まらないこともあります。

また、次年度9月入学のためのオンライン出願受付開始が毎年9月頃より開始され、9月から11月にかけては、資料発送、海外留学フェア、国内イベント等が重なる時期になります。説明会の開催時期、開催国については前後のフォローアップができるかどうかを含め、よく検討する必要があります。

解決策として、国によって志願者のニーズに基づく情報提供を工夫し、資料の電子化などで資料発送数を減らしたり、秋ではなく夏に開催することも検討できます。

- ・ 外国人学生の獲得競争

IUJは海外からの留学生が入学しやすい大学院として歴史はあるものの、他大学も学生寮を建設するなど、日本人と外国人の垣根を取り払うことに注力しています。また私立であるIUJは国公立大学に比較して授業料が高いため、100%自費で入学できる学生はごく限られています。奨学金に頼らずともIUJに入学したいと思う学生を獲得するために、より一層教育の充実、学生サービスの向上を目指し、IUJの価値をより魅力的に伝える工夫が必要となります。

- ・ 国内外の知名度向上

近年は日本各地の大学で学ぶ外国人学生が増えてきました。海外、特にアジアでは修了生も多く知名度が比較的高いIUJですが、残念ながら国内での知名度は今ひとつといえます。海外居住者が日本国内での留学先を検討する際、すでに日本で勉強している知人の意見を参考にすることもあるでしょう。4年制の学部を持たないIUJにとって、国内での知名度向上のために、ホームページやFacebook等のSNSの充実、広報に注力する必要があります。

また、欧米諸国や中国、韓国などIUJでは学生数の少ない国での知名度アップも今後の課題といえます。

7. スーパーグローバル大学創成支援採択校としての今後の展開

IUJは2014年9月、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援に「IUJ Evolution —アジアのグローバル・スタンダードを世界標準へ—」の構想で採択されました。この構想には、ベトナム、ミャンマー、ガーナでの現地事務所開所も盛り込まれており、まず、2015年11月にベトナムのハノイ国家大学外国語大学キャンパス内に同大学と共同でハノイ事務所を開所しました。これは本学の広報活動を行いながら、ベトナムの大学・研究機関等との関係構築、連携強化活動に加えて、現地日本企業との産学連携によるビジネス日本語教育を通じた、教育的側面からの日本企業支援を展開することを目的としています。2016年5月には、上記ハノイ事務所主催の第一回ハノイシンポジウムを開催し、現地の日本企業や修了生を招待して盛会となりました。

今後も、世界各地で活躍している修了生とのネットワークを大事にしながら、日本と世界各国の架け橋となるような優れた人材を育成することが、創設時からのIUJに課された任務であり責務であると思います。

IUJの素晴らしさを一言でいうと、国籍、宗教に関係なくIUJで学ぶ学生は平等であることでしょう。あるときは自分の得意な部分を発揮したり、思いもかけないようなところで議論したりと、お互い助け合いがわかり合いながら、人間的にも成長できる機会がIUJの日常の中には用意されています。ぜひ多くの方にIUJで学んでいただきたいと思います。